

準で運用を図る必要がありますので、公民館としての利用はしばらくの間お待ちいただいている現状です。

また、体育館、運動場については、今年3月の市議会定例会において、社会体育施設としての位置付けによる条例改正の議決をいただき、平成23年4月1日からご利用いただいています。しかしながら、条例の規定による制約があり、一部の地域において検討を進めている交流事業等の活用には、利用時間や利用方法などについて柔軟な対応ができない等の問題が浮上しており、今後どのようにに活用すればよいのか、また地域で管理・運用しやすい施設としての位置付けはどのようにすればできるのか、地域のご意見も伺いながら検討しています。

基本的に学校施設の跡地利用については、地域の実情を最もよくご存じである地域の皆様が、自主的・自発的に地域課題の解消に向けて、まずは利活用方法についてのご検討をいただき、取り組みを考えていただくことが、地域やコミュニティー

の維持・活性化を図るうえで最も大切なことではないかと考えています。

温暖化対策

問 緑のカーテン事業について

答 地球温暖化防止対策の一つとして、近年各地で緑のカーテン事業への取り組みが始まっています。市内の小中学校における実施状況については、平成21年度は3校が実施したのみでしたが、22年度には7校、23年度には9校が取り組んでおり、年々増加傾向にあります。



植物で直射日光をさえぎる緑のカーテン

ります。

市としても、今後どのような方法が効果的か、まずは市庁舎等の公共施設において、試験的に実施できないか検討していきたいと考えています。普及、推進にあたっては、担当課においてそのノウハウを蓄積することが必要であり、他市の事例等を調査研究し、市民の皆様や各種団体、施設等で取り組んでいただける方法等についてもあわせて検討していきたいと考えています。

鳥獣害防止施設整備事業

問 対策事業について

答 当市は、鳥獣害防止対策として、平成17年度より大洲市鳥獣害防止施設整備事業を実施しています。

この事業は、これまで、愛媛たいき農協が事業実施主体となつて、主にイノシシによる農作物被害を防止するため、電気防護柵の設置を整備し、その費用の3分の1以内で市が支援しています。この事業において、



イノシシの被害対策（箱わな）

過去6年間で416件の電気防護柵の導入を図り、総事業費で約2,400万円のうち、約760万円の支援を行っています。

ワイヤーメッシュ柵の設置に対する補助については、当事業でも補助の対象としています。しかしながら、電気防護柵と比較すると、ワイヤーメッシュ柵の方は費用が約3倍もかかってしまうため、農家負担が多くなることや事業費予算が限られていることなどから、採択件数が少なくなる等の理由で事業実施には至っていない状況です。これに対し電気防護柵に

については、他の防護柵と比べ、比較的安価でかつ軽量で簡単に設置できることから好評を得ており、電気柵導入農家が多い理由となっています。現在の予算状況では、電気防護柵でも農家の要望に対応できていない状況であり、今後においてもワイヤーメッシュ柵導入予算確保は難しいと思われる、今後県に対し予算の増額を要望していきたいと考えています。

なお、被害防止には、イノシシ等の個体数を減らしていくことが最重要と考えられており、引き続き捕獲事業にもより一層力を入れていきます。

企業誘致

問 活動の成果と今後の展望について

答 昨年3月、パナソニック大洲工場が閉鎖され、来年2月にはミュウプロダクツが撤退すると伺っており、当市にとって地域経済への影響は計り知れないものがあります。企業誘致の重要性や効果については、